

旧街道ウォーク345★古代東海道[33] [古代東海道 2008-09 その 12] 「布佐～竜ヶ崎」活動報告

【日 時】2009 年 4 月 5 日（日）11:00～17:10 晴

【コース】布佐駅 → 利根川栄橋 → 布川（琴平神社、徳満寺、柳田國男記念公苑）→ 中田切（一里塚、古街道）
＜昼食＞ → 横須賀・立木（蛟網神社※門の宮、奥の宮）→ 大房 → 上大徳（庚申塔）→ 龍ヶ崎市街
→ 竜ヶ崎駅（13km）

【参加者】○梶川義実、磯田尚子、大竹亮、片桐拓朗、北橋伸一、児山文一、清水俊哉、高梨健一、恒川磯雄、
長澤純一、林浩二、平野隆、古里実、矢作峰子、矢部公大（15 名）（○は主催者）

【概況説明】

当日は日差しの弱い、しかし春らしい天候でした。布佐駅から前回終着地・利根川／栄橋へ向かい、川を渡って茨城県に入りました。ここで、琴平神社、徳満寺（布川城本丸跡）のある丘へ登ってから布川町集落を抜け、柳田國男記念公苑を見学しました。県道に出てから、中田切の薬師堂脇の一里塚に立ち寄り、続いて「ふるけいどう」と呼ばれる旧道を抜けてその先で昼食休憩となりました。横須賀地区からは、丘の脇の旧道を進み、蛟網神社（門の宮、奥の宮）へ詣で、その先、大房地区からは古代道の近似ルートとして田圃の中の農道をほぼ一直線に進みました。江川を渡って龍ヶ崎市街へ入り、上大徳の庚申塔前で終了となりました。なお、ここから竜ヶ崎駅までバスの時間が合わなかったため、市街地商店街を歩いて駅まで到達しました。

【評価結果】

古代官道らしさについては、低い台地をつなぐ一本道ではあるものの、直達性や短絡性に疑問のある部分もあったためか、平均の評価となりました。沿道風景については、旧集落の風景や沿道の農家、生垣、広い田圃を挙げた人が多く、高い評価となりました。古道沿道の史跡については、古代の神社や史跡が多く見られたため、やや高い評価となりました。案内表示については、歴史に関するものが少しあったものの古道に関するものがなく、評価が低くなりました。印象に残ったものとして、琴平神社(金比羅講)、柳田國男記念公苑、蛟網神社を多くの人が挙げています。古道を活かしたまちづくりの方向については、布佐・布川と龍ヶ崎を結ぶ史跡を活かしたコースの提案などがなされました。全体を通じての評価点は 3.61 で、平均よりも高い評価となりました。



布川の柳田國男記念公苑・資料館



田中切の古海道（ふるけいどう）

【参加者の評価結果】

1 ◆全体を歩いた感想 評価点：3.61 内訳：AAAAABBBBBBBC

A：利根町と龍ヶ崎市をつなぐ今回のコースは、見ごたえのある史跡が多く、また桜咲く季節に豊かな農村風景を満喫でき、これまでの古代東海道でナンバーワンの好印象です。

A：歴史ある神社・寺院をいくつも訪れた前半と、田んぼの中の道を歩く後半、加えて龍ヶ崎の町歩きが組み合わせ、変化に富むコースで楽しめました。

A：琴平神社拝殿や布川神社社務所で寄合が行われていたり、柳田國男記念公苑の建物が町の行事に使われているのを見ると、寺社や史跡が生き生きとして現代の生活の中にあることが伺える。また、農家の屋敷や寺社の木彫等、豊かさを忍ばせるものが多くあった。広大な田の中を龍ヶ崎市街地めざしてひたすら歩いたのも楽しかった。

A：畔道を延々と歩き続けるなどという経験は、おそらく今までなかったと思いますが、それが思いのほか新鮮で、さらに天気も良かったせいか、とても気持ちよかったです。また今回、沿道には石祠類がたくさんあり、いにしへの空気みたいなものを感じられたのもよかったです。

A：当時の地形条件は不明だが、古代官道を計画するところなるであろう直線経路を歩けた。各所で地元の方々と思いもしない出会いがあったことも良かった。

B：利根川を渡って常陸国に入ってから前半は見所が多かった。車の幹線道路からはずれていたの、歩きやすかった。桜はまだ五分咲きだったが、春の陽光とともに、菜の花、たんぽぽ、つくしなどに春の息吹を感じた。

B：茨城の風土を実感できた。往古には「流海」と言われた広大な低地を小さな台地づたいに歩くという自然地形が体感できた。古社寺など史跡も多く、集落の生垣など沿道風景も美しかった。しかし、古代道がどのように通っていたのかの検証はまだこれからであろう。

B：いよいよ郊外から農村風景に変わってきた。沿道に色々な史跡や寺社があり、かつ田園風景が印象的であった。

B：田圃道を通るとというのが古代を感じさせてくれました。

B：初参加。町中を歩くのとはまた違う趣があり、肩の力を抜いて気楽に歩けました。

B：古代官道はよく分からなかった。しかし、行くまでは「何もない平坦地」というイメージしかなかったのが、実際には社寺や遺跡などが多く、また農家の家並みも美しく、意外と良いコースだった。天候にも恵まれ、楽しく歩くことができた。成田線（布佐）と竜ヶ崎は意外に近いことも分かった。

C：点としての史跡はあるが、田んぼの中の道が多く、趣きに欠けていた。

2◆特に魅力的だったところ

○布川の琴平神社：利根川に面する丘の上に鎮座する古社。地元の金比羅講が今も続いていることがすばらしい。

○琴平神社：利根川沿いの高台に要衝の感がある。金毘羅講がいまでも行われ、地域に密着していると感じられた。

○琴平神社の金毘羅講：このような場に遭遇するのは初めてでしたが、土地の人たち同士の結びつきの強さ、また、その土地の歴史の深さを感じました。

○琴平神社：（講をやっていた）地元の人たちの生活に神社がなじんでいる。

○琴平神社：ちょうど琴平講の最中、御神酒をふるまっていた。今も地域の暮らしに息づいているのに感動。

○琴平神社：地域できちんと神社を守っている実態に触れられた。

○琴平神社：小高い丘にあったが、水が出たときでも安全であろう。

○琴平神社と徳満寺：ちょうど琴平神社では拝殿で寄合いが、徳満寺では境内で葬儀が行われている最中だった。どちらも、近所の方が寺社の由来や見所について説明してくださり、史跡に誇りを持っていることが伺えた。

○徳満寺（布川城址）：歴史の重みが伝わる古刹。急な石段を上った山門など風格ある佇まいに心が引きしめる思い。

○徳満寺：葬儀に出くわしたのは初めてのような気がする。参加者からいろいろなことを教えてもらった。

○徳満寺の地蔵堂前にソテツや棕櫚が植わっていたこと：意外とよくある光景だそうですが、私にとっては意外な組み合わせで、でもとてもマッチしていたのが面白かったです。

○木彫：琴平神社拝殿の唐獅子、布川神社本殿の龍、蛟網神社本殿の龍など、凝った造りの木彫が数多くあった。往時の豊かさが忍ばれる。

○来見寺：徳川家康が立ち寄ったのを機に名前を変え、許された赤門と一茶の句が印象的。

○布川の集落：生垣や石蔵などが並び、品のある風景が見られた。

○柳田國男記念公苑：小川家の土蔵を活かした資料館が、緑の中に美しく、展示内容もわかりやすく良かった。

○柳田國男記念公苑：旧小川家が開放され、立派な土蔵が記念館になっている。偉大な人物が多感な少年期を過ごした当時のこの地に想いを至らせる貴重な施設。

○柳田國男記念公苑：旧小川家跡の広く美しい建物を宿泊の行事に利用している形跡があった。史跡を惜しみなく活用している点は、歴史が身近にあるようで素晴らしいと思う。

○柳田國男記念公苑：保存もよく実際に今も集会所で使われているところがよい。

○柳田國男記念公苑：一度は訪れてみたいと思っていた。資料館は柳田國男の生涯が理解でき面白かった。

○柳田國男記念公苑：遠野に行って間がなかったので興味深かった。

- 中田切の一里塚：薬師堂の近く、古海道の先にあった田圃の中の不思議な古塚が印象的。
- 中田切の一里塚：現代の道路から離れた位置にあったということと、塚らしく残っていること。もう少しアピールできる看板などが近くにあればいいのにと感じました。
- 佐竹街道一里塚：田の中に、おそらくは世代代わりしたであろう桜の木と庚申塔がある光景には、どこか懐かしさを覚えた。
- 佐竹街道一里塚とそこに咲き始めていた桜：田んぼの中に庚申塚が残されており、桜が開花しようとしていた。その桜が、江戸末期に見つかり明治以降に広まったソメイヨシノではなかったのが、なおふさわしいと思った。
- 古海道（ふるけえどお）：名前に味がある。いかにも曰くありげな道筋に思えてくる。沿道農家の生垣が美しい。
- 布川・横須賀・立木地区の町並み：（いずれも旧道沿い）、特に花盛りの沿道。
- 横須賀・立木地区の生垣：上下２段になっていて非常に立派である。
- 横須賀・立木地区の旧家：蔵や生垣が並ぶ美しい集落に、二階建ての壮麗な生垣と入口路傍に季節の花が咲き乱れる立派な旧家がひととき目立った。
- 蛟網神社：台地端部に古くからの神社が残されていた。
- 蛟網神社：由来といい社殿といい、古代を感じさせた。
- 蛟網神社：延喜式内社としての風格を感じた。
- 蛟網神社：門の宮、奥の宮とも雰囲気よかった。
- 蛟網神社：本宮でも奥宮でもしめ縄に切り揃えられた藁が下がっていた。古い建物に新しいしめ縄が清々しい。
- 蛟網神社：（特に奥社周辺）。これくらいきれいにされていると気持ちいい。本社の方は荒れていて残念。
- 蛟網神社：傷んだ社殿なんかならないか。
- 蛟網神社奥の宮：森の中の非常に急な階段を登り切った丘の上に鎮座する古社。名前からして不思議な印象を受け、境内の雰囲気も幽玄を感じさせる。
- 大房の正一位神社：稻荷神社でないが正一位神社であった。質素で清冽な古社の佇まいが好ましい。
- ひろ～い田んぼ：この土地の特徴を強く感じさせて面白かった。
- 田圃の直線道：見渡す限りの広大な田圃地帯を貫く一直線の道筋は、往古の流海を横切る古代道を彷彿とさせる。
- 龍ヶ崎市街：約２キロの中心商店街を端から端まで歩いた。街はかなり疲弊しており、すでにゴーストタウンに近い印象を受けた。商家の文化財登録やコロッケなどの町おこしの効果はどれほどだろうか。
- 龍ヶ崎の町並み：閉店したお店もあるが、良き時代の商店街の雰囲気がある。



布川・琴平神社の金比羅講



田中切地区の佐竹街道一里塚（古塚）

3◆古代官道らしさ（直達性、短絡性、古代史跡等） 評価点：3.00 内訳：AABBBBBBBCC

A：大房地区の広大な田圃を、はるか遠くに臨む龍ヶ崎市街地をめざして、ひたすら直進して歩いた。左手には筑波山がうっすらと見えていた。大まかな方角と地形を実感しながら、こんな感じで古代の人は歩いたかもしれないと思った。

A：蛟網神社の存在、中田切地区の古街道という地名と道路の痕跡など、古代官道の存在を感じさせた。

B：車の幹線道路でなかったため、古代の道を連想できた。史跡としては蛟網神社が光る。

B：古代史跡につながる徳満寺や蛟網神社。直達性は、耕地整理された真っ直ぐな農道で味わうことができました。

B：直線的でない部分があるが、古道であることは間違いないと思う。田圃の中の道は、古道そのものではないと思うが、雰囲気は出ていた。

B：中田切の集会所の先で曲がって田圃道に入った付近。広い道路の先で細いながらも道が残っていた部分。

B：利根川のコンクリート橋の下に見えた古街道筋を忍ばせる家並み。

B：地形（微高地と低湿地）が入り組んでいるため、古代道の推定はよくわからない感じがする。また、水田地帯は耕地整理の影響も大きい。いずれにしても何度も洪水があったはずで、よくわからない感じがする。

B：往古には「流海」と呼ばれる広大な低湿地であったであろうエリアを小さな台地をつないで歩くという行程が実感できた。特に、布川の古社寺群は歴史の蓄積を感じさせ、田んぼの中的一本道は、古代官道を彷彿とさせた。しかし、全体としての直達性は実感しにくかった。

C：直達性は、田んぼなのであったように思えるが、往時も田んぼだったのか沼地だったのか不明なので、直達性があったとは判断できない。

C：布川城本丸跡や蛟網神社が残されており古代のにおいは感じられるが、土地改良が行われた稲作地帯であり、古代官道らしさは少ない。



横須賀・立木地区の旧家の生垣



大房地区から龍ヶ崎への直線道路

4◆沿道風景の魅力 評価点：4.00 内訳：AAAAAABBBBBBー

A：非常に魅力的だった。里山を控えた旧道集落の佇まい、生垣や蔵屋敷など風情があった。また、丘の上の神社境内からの遠望や一面の田園風景の広がり、遠くに見える目印の森など、すばらしい風景が続いていた。最後の龍ヶ崎市街も、しみじみした情緒があった。

A：利根川沿いの丘の徳満寺や蛟網神社のある立木地区の農家住宅の生け垣、庭、家並み、後背の緑が美しかった。

A：多くの農家で、広い敷地に何棟もの建物がゆったりと配置され、手入れの行き届いた庭木や春の花や常緑樹の垣根が春の光を浴びるさまは、とても豊かに思われた。

A：農村風景、微高地の集落や林と、広大な水田のコントラストが鮮やか。

A：各所で美しい／ユニークな生け垣を見かけました。どれも日頃の手入れのたまものと思えます。

A：利根川手前の古い民家群は、ふと見下ろしたら視界に入ってきて、あんな場所にそのような街並みが残っていることが興味深かったです。あのときちょうど、住人らしき方が2人おしゃべりをしていましたが、なんだかタイムスリップしたような気分になりました。中田切地区の一里塚（庚申塔？）は、田んぼの真ん中にいきなり結界が設けてあって、石塔や石碑がいくつか並んでいる光景に、やはりその土地の歴史を感じました。蛟網神社は、鳥居も、お堂も、彫られていたものも、すべてが素晴らしかった。

B：利根川、布川の町並み、昼食をした場所から先の蛟網神社へ向かう道は緑陰の魅力的な道だった。大房からの一直線の農道も気持ちよかった。

B：ひろ～い田んぼと美しい生垣。

B：横須賀地区の旧家の生垣は、手入れが行き届いていて美しかった。

B：古道沿道の農家や生け垣が印象的だった。

B：季節もよく、沿道の農家の生け垣など、とてもきれいだった。

ー：蛟網神社のあった小丘陵地は平坦な土地の中にあって神秘性を感じました。

5◆古道にふさわしい史跡 評価点：3.25 内訳：AAABBBCCー

A：布川には琴平神社や徳満寺（布川城址）など史跡が多いほか、柳田國男記念公苑や古海道（ふるけえどお）も味わいがあった。蛟網神社の奥の宮は急な階段を上った深い森の中にあり、幽玄を感じさせた。

A：蛟網神社は門の宮、奥の宮、ともに古道にふさわしい史跡である。建物の傷みが気になりました。

A：徳満寺、布川神社、蛟網神社など古い寺社が多かった。

B：利根川沿いの要衝の地にある布川城本丸跡や台地突端にある蛟網神社が残されていた。

B：布川徳満寺、蛟網神社、佐竹街道と一里塚。

B：寺社等に庚申塔や地蔵が多くあったが、他の地域から移されたように見えた。

C：蛟網神社が光るほかは気付かなかった。

C：中田切地区は立派な痕跡であり、きちんと整備すべきであるが、あの状況では誰もわからないので、大変もったいない。

ー：蛟網神社と利根町道路元標：道路元標はいつの時代のものなのか？



布川・石蔵のある旧道風景



蛟網神社・奥の宮の急な階段

6◆古道や歴史の案内表示 評価点：2.71 内訳 BBBB BBCCCD

B：神社や寺の由来が掲示されていてよかったです。

B：町の教育委員会作成の案内表示が充実していた。

B：歴史案内は比較的良く整備されていたと思うが、古代東海道を意識したものはないように思う。

B：古社寺や史跡に関する表示はしっかりしていたが、古道に関するものは少ない(道標など残っているのに残念)。

B：徳満寺や蛟網神社には案内があったが、琴平神社にも由来等の案内表示が欲しい。

B：寺社には案内があって理解の助けになった。

C：神社やお寺にはあったが、古道についてはほとんどなかった。

C：あまり見かけなかった。

C：ほとんど無かった。

7◆古道を活用したまちづくりの方向

○今回のコースの両端が鉄道駅であり、利根川にかかる橋を渡り、寺社の数も多く風景が変化に富むので、ハイキングコースとして推奨できると思う。

○利根町から龍ヶ崎の今回の古道推定コースを是非観光ハイキングコースとして売り出すと面白いと思う。

○布川は少なくとも江戸期以来の集積があるので、持っている歴史資源を広くPRすると良いと思う。布川も龍ヶ崎も市街地が寂れたのはつい最近のことである。

○貴重な歴史的遺産がごく普通のように残され活用され誇りを持たれているこの地域で、今後もこれが失われないでもらいたいと願う。

○地元では中世鎌倉街道を学習教材に活用する試みもあるようだが、ぜひ古代東海道も含めて研究いただきたいもの。徳満寺や蛟網神社、柳田國男記念公苑など史跡が多いので、古道を介してつなぐと面白い。

○古代に思いをはせて歩くのはロマンもあり、知的好奇心も満たされていていいですね。

○「ふるけえどお」をもっとPRできれば・・・。

○拠点はあるが、田んぼの中の道であり難しいと思う。

8◆その他、今回の企画や気づいた点など

○見所の多いコースを入念に事前調査いただいた梶川さんに感謝です。今回歩いた茨城の農村集落は、生垣などが美しく維持管理されていて、東京近郊であるにもかかわらず土地利用が荒れていないことに感心しました。(M. F)

○手前遠くに市街地、左に筑波山を見ながら湿地を直進するのは、古代官道の追体験のようだった。(S. I)

○このシリーズでは高座郡寒川町以来の「町」ですが、いよいよ地方都市に入ったようです。利根町の平地の標高が2～3mしかないのは意外で、ここから川が河口まで流れていることが不思議です。(T. K)

○栄橋で利根川を渡って茨城県にはいったとたん、徳満寺で茨城なまりに気づきました。(K. H)

○龍ヶ崎市内の交通(バス)情報が事前になかった。結果的には駅まで歩いて問題はなかったが。(I. T)

○龍ヶ崎の街は夕方にも関わらず人通りが少なくさびしかった。(S. K)

○利根川を渡っていきなり琴平神社での金比羅講や徳満寺での葬儀に出くわしたり、思いがけず旧小川家(柳田國男記念公苑)の内部を拝見できたり、謎めいた蛟網神社を訪問したり、最後に龍ヶ崎市街を延々と歩いたり、想定外の出来事が多い一日でした。沿道風景は、事前にはどういうイメージか予想しにくかったのですが、実際に訪れてみると、すばらしい風土が実感できました。梶川さん、ありがとうございました。次は、以前から私が提起している異説の比較検証企画です。皆さん是非どうぞ！(R. O)

○田んぼ地帯から龍ヶ崎市街地に入る直前の、住宅が散在して接する直線道路の謎解きをしたいです。舗装されている部分の道幅は6mくらいでしょうか。その両側にそれぞれ3mくらいの道代(みちしろ)がありました。合計12mの姿は、まさに古代官道が現在発見される場合のひとつの形態そのものです。ただ、方角がずれているとのことでしたので、実際は古代官道ではないのでしょうか・・・。現代の農道整備の仕組みであのようになったのでは、という意見もありましたし・・・。(T. S)

○自分自身はまだ、ルートを推測するということまで追い付いていないので、ただ皆さんについて歩いているだけですが、毎回いただいているたくさんの資料のおかげもあって、少しずつ興味も深まってきました。いつか皆さんの話題について行けるようになればいいなあ、と思います。(M. Y)

○これからも参加させてください。よろしくお願いいたします。(T. H)

○東京都心部から距離があるにもかかわらず、参加者が15名とは驚いた。初参加の方も増えていくのもうれしい。(J. N)

主催者より◆今回は沿道もさることながら、琴平神社をはじめ各所で出会いがあって面白かったです。特に後半は天候に恵まれないと歩きにくいコースでしたが、古代の官人や租庸調を運んだ東国の人々の苦労に思いをいたすには良かったかもしれません。関東鉄道の駅までの龍ヶ崎市街地の町歩きはおまけでしたが、別の曜日、別の時間帯であつたらもう少し賑わいがありました。次回続き(日程未定)は、さらに行きにくく、帰りにくい場所が起終点になりますが、新しい発見もあると思います。お楽しみに。(梶川義実)



※注：本文中の蛟網(こうもう)神社の「もう」の字は、正しくは糸へんではなく虫へんです。

横須賀・立木地区の蛟網神社門の宮にて